

『野球を正しく理解するための野球審判員マニュアルー規則適用上の解釈についてー第2版』修正一覧

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|--|---|---------------------|
| 29 | 9 野手のグラブの色 の最後のパラグラフの3行目 社会人、大学は2014年度は猶予期間とし、2015年度から規則どおり適用することとしている。 | 9 野手のグラブの色 社会人、大学は引き続き2015年度および2016年度の2年間を猶予期間とすることとした。 | |
| 30 | 12 リストバンド 3行目 ・、商標はリストバンドまたはサポーターいずれか1箇所とする。 | 12 リストバンド 3行目 ・ <u>サポーターへの商標は認められない。</u> | 改正 |
| 30 | | 13 リストガード <u>使用を認める。ただし、商標表示、選手名等一切の表示は認めない。(サポーター扱いとする。)</u> <u>色規制：アンダーシャツと同色(単色)もしくはブラック、ベージュ、ホワイト一色とする。</u> <u>なお、リストガードについては、2015年度は猶予期間とし、2016年度以降は一切商標の表示は認めないこととする。</u> <u>また、現行サポーターについては商標表示を認めているが、上記に伴い、2015年度より商標の表示は禁止する。</u> | 新規追加 以下番号を繰り下げる。 |
| 31 | | 18 手甲ガード <u>その使用を認めない。</u> | 新規追加 |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|---|--|--|
| 31 | | 19 守備用手袋 使用を認める。ただし、商標は1カ所のみとし、その大きさは14平方センチ以内とする。 | 新規追加 |
| 53 | 2 コーティシーランナー（臨時代走） 上から3つ目のパラグラフの冒頭 わが国では・・・ | 2 コーティシーランナー（臨時代走） わが国の・・・ | 修正 |
| 53 | 2 コーティシーランナー（臨時代走） （参考）臨時代走者の・・・もとの走者の記録と扱われる。（規則 3.04 [原注]） | 2 コーティシーランナー（臨時代走） （参考）臨時代走者の・・・もとの走者の記録と扱われる。 | 修正：「（規則 3.04 [原注]）」を削除 |
| 55 | | 4 ダブルスイッチ 「ダブルスイッチ（投手交代と同時に野手も交代させて、投手を含めて打撃順を入れ替えること）の場合、監督はファウルラインを越える前に、まず球審に複数の交代と入れ替わる打撃順を通告しなければならない。監督またはコーチがファウルラインを越えたら、それ以後ダブルスイッチはできない」との規定が2015年度の規則改正で3.06 [原注]に追加になった。 それは監督がマウンドに行ってから選手交代を考えたり、球審に告げたりすると、球審はその確認に時間はかかるし、混乱も生じるから、それを避ける意味で球審に告げてからマウンドに行きなさいとした。 【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。 | 規則改正（3.06 [原注]）に伴う追加 以下番号を繰り下げる |
| 59 | 9 スピードアップルール 最後のパラグラフ 社会人野球では、・・・・・・ | 9 スピードアップルール 最後のパラグラフ 社会人野球および大学野球では、・・・・・・ | 特別規則の改正 |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|---|--|-----------|
| 60 | 12 ハーフスイング | <p>12 ハーフスイング 最後尾に次を追加する。</p> <p>9.02(c) [原注]の3段目に、次が追加になった。「監督または捕手からの要請は、投手が打者へ次の1球を投じるまで、またはたとえ投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企てるまでに行わなければならない。インニングの表または裏が終わったときの要請は、守備側チームのすべての内野手がフェア地域を去るまでに行わなければならない。」</p> <p>ハーフスイングの要請の期限を、アピールの規定に合わせて明記した。なお、投球に続いて、たとえば、捕手が盗塁を刺そうとして二塁に送球したとか、あるいは飛び出した走者を刺そうとして塁に送球するプレイは、投球に続く一連のプレイだからアピール消滅のプレイには当たらず、その直後にチェックスイングの要請をすることは可能である。しかし、ボールが一旦投手のもとに戻り、投手がプレイをしてしまうなど、アピール権が消滅するような状況になれば、もうチェックスイングの要請はできない。</p> | 規則改正に伴う追加 |
| 79 | <p>16 インフィールドフライと妨害 例題(2)の回答</p> <p>——打者はインフィールドフライでアウトが宣告され、一塁へ進むことができなかったので、ボークのペナルティが適用され、走者二・三塁で打者は打ち直しとなる。</p> | <p>16 インフィールドフライと妨害 例題(2)の回答</p> <p>——打者は<u>打撃妨害で一塁に進み、各走者は押し出されて、走者満塁で再開となる。</u></p> | 訂正 |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|--|--|-----------|
| 85 | 1 ワインドアップポジション 例題の3行目、カッコ内 ……、左投手の場合は二塁側回り) | 1 ワインドアップポジション ……、左投手の場合は <u>一</u> 塁側回り) | 訂正 |
| 90 | 11 走者二塁のときの三塁への送球 第5パラグラフ以降 つぎに、「必要なプレイ」とは…… ……。このことから、三塁への偽投の禁止とは、 投球時に三塁に走者がいるときに偽投をした 場合はボークとなることがわかる。 このような整理をした上で、単独二塁のケー スを考えてみると、次のような事例が想定され るが、これらはいずれもそのプレイが三塁への 偽投禁止に抵触するというより、そのプレイが その走者に対する必要なプレイとみなせるかど うかということがポイントとなる。つまり、「必 要なプレイ」とは、二塁走者に三塁への進塁行為 があったかどうかで判断され、盗塁の素振りが みられない、あるいはただ単にスタートを切っ ただけという場合、投手が二塁へ偽投した後、投 手板を踏んだまま、三塁へ送球したり、送球する まねをしたら。それはボークとなる。 しかし、走者に進塁行為があれば、投手が二塁 へ偽投した後、三塁へ送球したり、送球するまね をすることは、必要なプレイとして合法である。 ……判断である。 | 11 走者二塁のときの三塁への送球 第5パラグラフ以降 三塁への偽投禁止とは、投球当時三塁に走者が いるときに投手が投手板を踏んだまま三塁に送球 するまねをした場合(8.05(b))、および投球 当時三塁に走者がいなくて、投手が投手板を踏ん だまま三塁に送球するまね(送球を止めた場合を 含む)をした場合(8.05(d))はボークとな るということである。三塁に送球すれば問題ない。 ただし、走者が三塁にいなくても必要なプレイと 判断された場合には、8.05(d)[原注]により 三塁に送球することは認められる。 では「必要なプレイ」とはどういう場合を言うの であろうか。2015年度の規則改正で、8.05 (d)[原注]に、つぎの規定が追加された。 「投手が走者のいない塁へ送球したり、送球する まねをした場合、審判員は、それが必要なプレイか どうかを、走者がその塁に進もうとしたか、あるい はその意図が見られたかどうかで判断する。」 この追加条文に見られるように、「必要なプレ イ」とは、走者の行為によって審判員が判断する ということである。そして、走者が次の塁に進もう としたか、あるいはその意図が見られたかが審判員 の判断基準となると言っている。 | 規則改正に伴う変更 |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | | <p>次の塁にまで走ってしまえば判断に迷うことはないが、たとえば途中で走るのを止めた、途中から戻ったというときにどう判断するか、審判員として一つの目安となるのが、走者が塁間の半分を越えていたかどうかである。越えていれば途中で走るのを止めても次の塁に進もうとしていた、あるいはその意図が見られたと判断してよい。したがって、スタートを切っただけというのは、必要なプレイには該当しない。</p> <p>ここで注意してほしいのは、必要なプレイであれば三塁に偽投または送球するのを止めてもよいのかという点だが、8.05(b)により三塁の場合は、いずれの場合も投手板上から偽投または送球するのを止めることはできない。一塁の考え方と全く同じである。8.05(d)により、投手板上からプレイの必要があっても送球するまねができるのは、二塁だけとなる。</p> <p>以上のとおり、走者に進塁行為があれば、投手が二塁へ偽投した後、投手板を踏んだまま三塁へ送球することは、必要なプレイとして合法である。・・・・・・判断である。</p> <p>なお、関連して、走者がいるとき、投手が投手板から軸足をはずして、走者のいない塁に送球または送球するまねをした場合、投手の遅延行為とみなしてボークとなることにも注意が必要である。</p> <p>(アマ内規⑫)</p> | |
|--|--|---|--|

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|-----|-------------|---|--|----------------|---|--|----|---|--|----|---|--|---|---|--|-------------------------------------|--|--|----|-------------|---|--|----------------|---|--|------------------------|---|--|----------------|---|--|----------------|---|--|---------------------------------|-----------|
| 91 | 1.1 走者二塁のときの三塁への送球 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事例</th> <th>処置(8.05(d))</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>必要なプレイとして認められる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>審判員の判断で、プレイの必要があったとみなされれば必要なプレイとして許される。マウンドを降りる際は、軸足を正しく投手板から外す必要がある。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>審判員の判断によるが、必要なプレイなプレイとはみなせず、ボークとなる。</td> </tr> </tbody> </table> | | 事例 | 処置(8.05(d)) | 1 | | 必要なプレイとして認められる | 2 | | 同上 | 3 | | 同上 | 7 | | 審判員の判断で、プレイの必要があったとみなされれば必要なプレイとして許される。マウンドを降りる際は、軸足を正しく投手板から外す必要がある。 | 8 | | 審判員の判断によるが、必要なプレイなプレイとはみなせず、ボークとなる。 | 1.1 走者二塁のときの三塁への送球 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事例</th> <th>処置(8.05(d))</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td><u>ボークである。</u></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td><u>必要なプレイとして認められる。</u></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td><u>ボークである。</u></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td><u>ボークである。</u></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>審判員の判断によるが、必要なプレイとはみなせず、ボークとなる。</td> </tr> </tbody> </table> | | 事例 | 処置(8.05(d)) | 1 | | <u>ボークである。</u> | 2 | | <u>必要なプレイとして認められる。</u> | 3 | | <u>ボークである。</u> | 7 | | <u>ボークである。</u> | 8 | | 審判員の判断によるが、必要なプレイとはみなせず、ボークとなる。 | 規則改正に伴う変更 |
| | 事例 | 処置(8.05(d)) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | 必要なプレイとして認められる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | 同上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | 審判員の判断で、プレイの必要があったとみなされれば必要なプレイとして許される。マウンドを降りる際は、軸足を正しく投手板から外す必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | 審判員の判断によるが、必要なプレイなプレイとはみなせず、ボークとなる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事例 | 処置(8.05(d)) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | <u>ボークである。</u> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | <u>必要なプレイとして認められる。</u> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | <u>ボークである。</u> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | <u>ボークである。</u> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | 審判員の判断によるが、必要なプレイとはみなせず、ボークとなる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|----------------|---|-----|
| 100 | 22 ボークの後の”タイム” | <p>22 ボークの後の”タイム “</p> <p>(9) を追加する。以下番号を繰り下げる。</p> <p>(9) ボーク後の投球または送球を捕手または野手が前にこぼした、あるいははじいたがすぐ拾った場合、どの時点でタイムをかけるのか。</p> <p>野手が前にこぼしてすぐ拾った、あるいははじいたがすぐ拾ったような場合、「捕球」と同じ扱いにして、拾った時点でタイムにしてはどうかという意見もあるが、一方では「すぐ」とはどこまでか定義することは難しいし、また「捕球」されていない限り、走者は、自分のリスクでアウトを賭して余塁を奪うことも可能だから、その可能性が残されている限りプレイは続けるべきだとの意見もある。</p> <p>結局、プロアマ合同規則委員会では、「ボーク後の投球または送球が、野手によって第一動作で捕球されない限りインプレイの状態を続け、すべてのプレイが止まった時点または走者が余塁を奪いそうにないと審判員が判断した時点で、審判員はタイムをかけてプレイを止めボーク後の処置をとる。ただし、野手がボールをすぐ拾い上げ、かつ走者に全く進塁の動作が見られないと審判員が判断したとき、および単独走者三塁でランダウプレイになったときは、その時点でタイムをかけプレイを止める。」との結論を出した。</p> | |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|-----|--|-------------------------|
| 101 | | <p>25 投手が異物をつける 規則8.02(b)で、投手はいかなる異物でも、身体につけたり、所持することは禁止されている。そして、2015年度の改正で、[原注]および[注]が次のとおり追加された。</p> <p>[原注] 投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない(たとえば救急ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、ブレスレットなど)。審判員が異物と判断するかしないか、いずれの場合も、手、指または手首に何かをつけて投球することを許してはならない。</p> <p>[注] 我が国では、本項[原注]については、所属する団体の規定に従う。</p> <p>この規定で注目すべきは、「投げ手の」ではなく、「いずれの」と言っていることである。投げ手に異物をつけてはいけないというのは容易に理解できるが、「いずれの」と言っているのはどういうことだろう。昨シーズン、メジャーで首筋に松ヤニをつけてそれをボールにこすりつけていた投手が見つかり退場になった例があった。したがって、右投手の左手、すなわちグラブをはめた手、指に何か異物をつけることが今後起きるかもしれない。そのようなことが起きる前に、あらかじめ予防措置を講じておこうというのが今回の改正と理解できる。</p> | 規則改正に伴う追加 以下番号を繰り下げる |

| | | | |
|-----|--------------|--|--|
| | | <p>見えなければいいのか、隠れていたらいいのかという質問が来るが、それは誰も見ていないから悪いことをしてもいいのかと同じ類の愚問であり、フェアの精神に悖る行為であることに間違いない。</p> <p>参考までに、社会人および全日本大学野球選手権大会などの大学野球では、8.02(b)本文および[原注]の適用に際しては、異物を「投球に影響を及ぼすもの」と解釈し、監督から申し出があり、審判員が認めたものに限って許可することになっている。(日本野球連盟(社会人野球)内規 11、全日本大学野球選手権大会特別規則7など)</p> | |
| 104 | 26 マウンドに行く回数 | <p>26 マウンドに行く回数</p> <p>第5パラグラフ(・・・数えられる。)の後に新たに次のパラグラフを追加する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>監督またはコーチが投手のもと(マウンド)に行く制限について</u></p> <p>1. 監督またはコーチがファウルラインを越えて投手のもと(マウンド)に行った場合は必ず1回に数えられる規則である。ただし、投手交代の場合を除く。</p> <p>2. イニングの途中で、監督またはコーチが投手のもとへ行き、投手交代をする場合：新しい投手がマウンドに到着し、その投手がウォームアップを始めたならば、その監督またはコーチはベンチに戻る。もし、そのまま(マウンドに)留まっていた場合には「一度」に数えられる。</p> </div> | |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | <p>3. 新しいイニングの初めに監督またはコーチがマウンドに行った場合には、「一度」に数えられる。</p> <p>4. 球審（審判員）は、監督またはコーチに投手のもと（マウンド）へ行った回数を知らせる。</p> <p>（2015年2月10日アマチュア野球規則委員会通達）</p> <p>なお、イニングの初めに監督またはコーチがマウンドに行って新しく交代した投手を待ち（1回）、さらにその投手がウォームアップを始めてもマウンドに留まっていれば（1回）、2回となって、8.06（b）に抵触し、その投手は自動的に試合から退くことになってしまう。これでは、まだ1球も投げないうちに退くことになるので、この場合は、その打者がアウトになるか、走者になるまで投球し、その後退くことになる。</p> <p>審判員としては、これを看過せずに、投手のウォームアップが始まったら監督またはコーチにベンチに下がるよう注意し、そのままいたらさらに1回となりますよと警告を与えることが望ましい。</p> | |
| 105 | <p>26 マウンドに行く回数 上から4つ目のパラグラフ</p> <p>社会人野球では、スピードアップのために監督またはコーチがマウンドに行く回数を以下のとおり制限している。（社会人野球内規14）</p> <p>14.</p> | <p>26 マウンドに行く回数 上から4つ目のパラグラフ全体を次のように入れ替える。</p> <p>社会人および大学野球で「社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則」を制定することに2015年2月3日に合意した。</p> <p>8. 監督またはコーチが投手のもとに行った場合、</p> | <p>「社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則」の制定による修正</p> |

| | | | |
|-----|---|---|--------------|
| | <p>③ 内野手（捕手を除く）が・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・</p> | <p>審判員がタイムをかけてから45秒以内に打ち合わせを終了する。</p> <p>9. 内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。</p> <p>監督またはコーチが投手のもとへ行ったときも1人の内野手だけ（この場合は捕手は含まない）が投手のもとへ行くことが許され、そしてそれは内野手が投手のもとへ行った回数に数えられる。</p> <p>なお、投手交代により新しく出てきた投手が準備投球を終えた後、捕手が投手のもとへ行っても、捕手が投手のもとへ行った回数には数えない。</p> | |
| 105 | <p>26 マウンドに行く回数 最後のパラグラフ なお、社会人野球では、・・・・・・・・ ・・・・・・・・（社会人野球内規15） 15. 一試合につき攻撃側の・・・・・・・・ ・・・・・・・・</p> <p>ただし、攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側がマウンドに集まっているとき、・・・・）に話し合いを持っても、さらに遅延を招かない限り、回数にはカウントされない。</p> | <p>26 マウンドに行く回数 最後のパラグラフ なお、<u>社会人および大学野球</u>では、・・・・ ・・・・（<u>同上特別規則10</u>） 10. <u>1</u>試合につき攻撃側の・・・・・・・・ ・・・・・・・・</p> <p>ただし、攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側が<u>投手のもと</u>に集まっているとき、・・・・）に話し合いを持っても、さらに試合を遅延させない<u>限り</u>、回数には数えない。</p> | |
| 111 | <p>5 打球が走者に当たる 下から10行目太字の部分 野手が打球を処理しようとしているときは別である。</p> | <p>5 打球が走者に当たる 下から10行目太字の部分 はじいた打球を処理しようとしている野手を妨害した場合は別である。</p> | <p>表現の修正</p> |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 | | | |
|-----|--|--|-------------|--|----|---------------------|
| 111 | 5 打球が走者に当たる 下から6行目 ……、走者はアウトが宣告される。…… | 5 打球が走者に当たる 下から6行目 ……、走者は <u>7.08 (b) によってアウトにされる場合もある。</u> …… | 表現の修正 | | | |
| 123 | 19 ボークと打撃妨害 例題1：走者一塁、一・二塁、または満塁のときは、 | 19 ボークと打撃妨害 例題1：走者一塁、一・二塁、または満塁のときは | 修正：「と」を削除 | | | |
| 132 | 31 打者のスイングの余勢でバットが捕手に触れる | 31 打者のスイングの余勢でバットが捕手に触れる 事例の表に次を追加 <table border="1" data-bbox="1012 699 1626 906"> <tr> <td>5</td> <td>捕手またはミットに触れたが捕手は構わずプレイをして、たとえば塁上の走者がランダウンになったケース</td> <td>同上</td> </tr> </table> | 5 | 捕手またはミットに触れたが捕手は構わずプレイをして、たとえば塁上の走者がランダウンになったケース | 同上 | 事例の追加 以下番号を繰り下げる |
| 5 | 捕手またはミットに触れたが捕手は構わずプレイをして、たとえば塁上の走者がランダウンになったケース | 同上 | | | | |
| 157 | 6 悪送球による安全進塁権 | 6 悪送球による安全進塁権 最後から3つ目のパラグラフの後に、次を追加する。 ”悪送球がなされたとき”とは、…… ……言うのではない。また、わが国では、”悪送球が野手の手を離れたときの走者の位置”については、走者の占有塁を基準にするのではなく、”各走者の立っているところ”との解釈をとっている。(1980年プロ・アマ合同規則委員会の結論を2015年 同委員会にて再確認) | 規則適用上の解釈再確認 | | | |

| ページ | 現 行 | 修 正 | 備 考 |
|-----|--|--|---------------------------|
| 170 | <p>23 進塁放棄 例題1の回答 ——得点は認められない。・・・・・・・・</p> <p>もしノーアウトまたはワンアウトの場合であれば、三塁走者が本塁を踏んだときに決勝点となって試合終了となる。</p> | <p>23 進塁放棄 例題1の回答 ——得点は認められない。・・・・・・・・</p> <p>もしノーアウトまたはワンアウトの場合であれば、<u>二塁走者、三塁走者および打者走者が本塁を踏んだときに3点が記録され、試合終了となる。</u></p> | 訂正 |
| 170 | | <p>24 一塁に触れてすでに走者となったプレイヤーには打者走者は含まれるか</p> <p>7.08(a)(2)の「一塁に触れてすでに走者となったプレイヤー」とは、一塁に到達してオーバーランをし、ただちに帰塁をして一塁に触れなおした走者のことを言う。したがって、オーバーランをしたままでただちに帰塁しなかった打者走者は含まない。</p> <p>一塁に触れた打者走者がアウトと思いこんでダッグアウトか守備位置に向かったとき、アピールの有無に関係なく、審判員がその行為を走塁する意思を放棄したと判断した場合、その打者走者に審判員はアウトを宣告できる。</p> <p>審判員は、守備側からアピールがあった場合、また走塁を放棄したと判断した場合、いずれの場合でもその打者走者にアウトを宣告できることとする。 (7.08(a)(2)、7.08(j))</p> | 規則適用上の解釈の変更 以下番号を繰り下げる |